

2024私の市民劇場賞

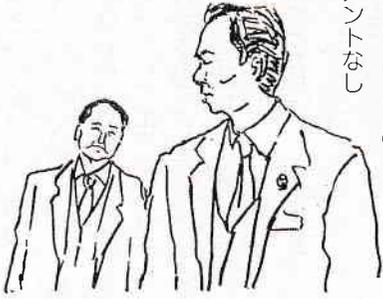
第38回旭川市民劇場賞は、劇団チヨコレートケーキ『帰還不能点』に決定、総会で発表されました。

会員証の投票用紙でお寄せいただいた、旭川市民劇場賞推薦作品の感想や一年間の例会の感想をご紹介します。

2月例会(233票)
JACROW

『膏闇、街に「登る」』

●コメントなし



4月例会(83票)
プリエール

『あぶくの流儀』

●早変わり、化粧などの早わざすばらしい。感動しました。

●真剣にお芝居を見るのも良いですが、ミュージカルの様な皆が和気合い合いになって一丸になるのも良いと思います。これからは頑張って楽しいのも選んでほしいと思います。

●こんなの初めて、めちゃ楽しい。
●どの作品も感動したり楽しかったのですが『あぶくの流儀』とにかく笑いました。爆笑でした。

●プロの演劇を観る楽しさを知った一年間でした。公会堂の座席に体も慣れることができました。

●全例会印象深い内容でした。年に1本位『あぶくの流儀』のようなエントーテイメント性の高い作品も良いと思い4月に投票しました、今日の『ガブクタ』も良かったですが…。
●見た後考えさせられる作品が多かったように思います。年を重ねると難しいのは疲れます。心が軽くなるのが一番です。
●真に大衆演劇そのものでした。素晴らしいかったです。

●ドンデン返しを予想していたがやっぱりと思いきや。舞踊もよかったです。最後の話が長かった。

●20年ぶりの再入会です。毎回舞台の迫力に圧倒されています。

●おもしろかった！会場がわくほど(私も)いままでになく感じてでしたが、『あぶくの流儀』のような明るいエントメも見たいです！



6月例会(20票)
劇団19800

『いちばん小さな町』

●現在、クルド人ハイトと入管法改悪など日本も差別がすごくてとてもタイムリーな内容でそこに住む方々のあたたかい交流や苦悩などリアルに描かれていてよかったです。

7月例会(94票)
劇団チヨコレートケーキ

『帰還不能点』

●7月例会 戦争の裏の一部を知り、その後NHK朝のドラマで話題になり、戦後色々な面でも口にも出せず、苦しみながら生活している人達がいる事を知りました。2月の例会も迫力がありました。10月の榎山さんの朗読もすばらしい。引き込まれました。

●古川健さんの才能のすごさをあらためて感じさせてくれる作品でした。私たちは歴史からしっかりと学ばなければなりません。なかつたことにしてはいけない。絶対に！





- 戦争は始めたらなかなか終われないことが分かり、始めてはいけななしみじみ感じた作品だった。
- 担当例会で印象深く、作品も良かった。
- 今年は「これだ」という作品は無かったけど、それなりに楽しめました。
- 多彩な劇団の1年でした。
- 『あぶくの流儀』の1人化粧シーンはとても見ごたえがありました。
- 特に2月例会について また観たいとは全く思いません。



10月例会(71票)

劇団民藝

『篠田三郎・榎山文枝 文学の夕べ』

- ベテランの完べきさがすごく良かった。
- 何度か朗読は聞いていますがお二人朗読は素晴らしかったです。セツトもすてきでした。
- 文学のすばらしさ・プロの方の朗読の魅力を改めて感じた。10月例会の特に榎山文枝さんの朗読は情景が目につかぶ様なもので感動しました。どの例会も楽しかったです。
- 演劇とは多少違うが、語りの中で情景が浮かぶ事が出来ました
- 役員の皆様にはいつも大変な思いで続けて頂き有難く思っています。いつも楽しませて頂いています。できるだけ出席したいと思っておりますので宜しくお願い致します。

12月例会(113票)

TRASHMASTERS

『ガラクタ』

- 12月例会はむずかしいテーマをよく取上げてわかりやすくみせてくれました。
- 今年は全部見る事ができました。どれもよかったです。今回一番シヨックでした、リアルで。
- 現状、問題点を判りやすく提示してくれた。リアルな町民の姿に戦慄をおぼえた。
- 2月、4月、10月と迷いました。身近な問題を本当に真剣に考えなければと思った『ガラクタ』に決めました。
- 高レベル放射能廃棄物の問題について、これほど真つ正面から取り組んで観せてくれたこと、よくぞ取り上げてくれました！という感じです。ていねいに下調べをしたであろうということが随所にあらわれていて感激しました。7月も良かったんですけど・・・
- 圧倒された。当局から怒られない心配です。
- どの回も楽しく観させてもらいましたが、知ることのない内容をフイ



- クシヨンとは言いながら深く深く思うことがあり、12月に投票します。
- すべての例会を18・30からの夜に観ました。ブラジル日系人との共生『いちばん小さな町』と、太平洋戦争開始前に若手エリート達が戦争について研究し敗戦予想をしたにもかかわらず戦争突入の経緯を描いた『帰還不能点』もすばらしかったです。
- 10月よりの入会ですので、その中からの投票です。
- 寿都町近くの島牧村に住んでいた事があり、注視していたテーマでした。こんなにストレートに訴えかけるお芝居を書いて上演して下さり有難うございました。

● ● ●

2月『宵闇、街に登る』は、政治の裏側という面白さはありましたが、金権政治の腐敗は描けていませんでした。4月『あぶくの流儀』は、大衆演劇の面白さだけに留まった作品でした。6月『いちばん小さな町』は、サンパ実施の議論だけでなく、ブラジル人の移民問題にも踏み込んでほしかったです。10月『文字の夕べ』は、篠田さんと榎山さんの二人の朗読が見事でしたが、やはり演劇を見たいというのが本音。12月『カラクタ』は、賛成派と反対派の対立に終始し、原発のあり方など、もっと深い問題提起がほしい作品でした。

7月『帰還不能点』は、知られざる総力戦研究所の存在を知らしめ、そこに所属した民間人の戦争責任について描かれました。自分たちに戦争を止められたのではないかという苦悩と同時に、自分たちにできることはきつとあるという希望を感じました。このような作品を観ることが市民劇場で演劇を観る意味であると再確認する機会になりました。

(得票総数 410票 無効6票)